

郷土こぼれ話

地域の神様 ① 三島神社（原島）

— 志村豊さんにお話を伺いました —

地域の神様として最初に採り上げさせていただくのは、原島の三島神社です。三島神社は、原島今泉の氏神様です。今泉5地区からそれぞれ総代を選出し、氏子の代表として行事を行っています。お祀りしているのは、大山祇命（おおやまつみのみこと）ですが、無病息災の神社として、古くから人々に親しまれています。

行事としては、元旦の初詣、謡い初めに始まります。宮司にお祓いをしていただき、年間行事の報告を行い、新しい年の役員を決めます。1月の16日には三島神社の氏子がお寺に集まり、初観音の行事を行います。4月23日、7月20日、10月15日には、それぞれ春祭り、夏祭り、秋祭りが行われます。7月には、百万遍という行事もあります。人々は神社に集まり、掃除をしたり木の枝を下ろしたりします。場所をお寺に移し、みんなで百万遍のお念仏をお唱えするわけです。このときは、神様と仏様、ご先祖様たちと地域の人々みんなが手を取り合えるわけです。また、暮れの29日には、新年の謡い初めの準備を行います。

お社の中には、神輿がまつられています。この神輿は女の神輿で、お社から外に出すと大水が起こるといふ言い伝えがあります。昔は、



三島神社(原島)

お祭りのときたくさんの灯籠が並んだり、出店があつたりしましたが最近はなくなりました。築山の石は富士石と伝えられ、古くからとても大切にされてきました。地震で、支えの部分が痛み、石材店に依頼し修理してもらったこともあります。掃除は当番の氏子と子どもたちで行います。特に、銀杏の葉が散るときは力を合わせて掃除する手にも力が入ります。木の手入れは、たくさんの人の力が必要なので、百万遍のときに行います。昔子どもたちは、すぐ近くを流れる三島川でよく泳いだものです。「三島様に集合！」が合い言葉のようになっていました。また、若いとき銀杏の木で体を鍛えた人もいます。今泉の人たちに親しまれ護られてきた証です。

三島様は、地域の神様として親しまれてきましたが、ぜひ地域の人には氏子の輪に入らせていただきたい、そして身近な氏神様として大切にしていきたいと思います。古くから行われてきた神社の行事を大切にしていきたいと思います。さらに、地域のまとまりの場となればと考えています。

※「地域の神様」の一回目として、原島の三島神社を採り上げさせていただきました。そして、地区にお住まいの志村豊さんにお話を伺いました。小さな紙面ですので十分にお伝えできないかもしれません。

私たちが大幡には、道の端で人々を見守り続けてきたたくさんの神様があります。これらの神様を、もう一度私たちの目に止まるよう採り上げさせていただこうと思います。小さな神様、気付かれないかも知れない私たちの神様を、大幡公民館広報編集委員会にお知らせください。

文・写真：むらた ひとし

大幡公民館だより 平成27年 3月号